

# ふるさとくわなし元気プラン

平成27(2015)年3月

榎梨自治振興会  
(榎梨地区地域計画策定委員会)



## 目 次

序章	計画策定にあたって	1
1 章	地区の概要	2
1	位置・面積	2
2	人口・世帯数	3
3	道路・交通	5
4	主要公共公益施設等	5
2 章	地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要	7
1	調査概要	7
2	調査結果	7
3 章	地区の魅力・資源と問題点・課題	21
1	地区の魅力・資源	21
2	地区の問題点・課題	23
4 章	ふるさとくわなし元気プラン	24
1	地区の将来像	24
2	ふるさとくわなし元気プランの基本方針	26
3	ふるさとくわなし元気プランの基本計画	27
4	計画の推進体制	38
資料	計画策定の取り組み	40



## 序章 計画策定にあたって

### 1 計画策定の目的

榎梨地区は、大和地域において比較的利便性に恵まれた地区で、大和地域を校区とする大和小学校や大和中学校が立地しています。しかしながら、若年層を中心に人口が流出するなど、高齢化・少子化が進行し、地区活動の担い手不足、公共公益施設の減少などにより、地区の活力が失われてきています。

こうした状況を打開するには、自分たちの地区のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力して地区の活性化に取り組むことが一段と重要になっています。

このため、榎梨自治振興会では、三原市中山間地域活性化事業を活用し、誰もが誇りをもち、自慢できる地区づくりを目指して、地区の活性化計画「ふるさとくわなし元気プラン」の策定に取り組みました。

### 2 計画の役割

「ふるさとくわなし元気プラン」は、榎梨自治振興会が中心になって取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体などで地区づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、榎梨地区出身者、都市住民など、多様な方の幅広い応援を働きかけるために活用します。

### 3 計画策定への取り組み

榎梨自治振興会では、各種団体の代表者などとともに「榎梨地区地域計画策定委員会」を設置し、「ふるさとくわなし元気プラン」の策定に取り組みました。

また、計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、地区内住民（16歳以上）へのアンケート調査の実施、地区住民全員を対象とした意見交換会（ワークショップ）を行いました。

### 4 計画の期間

計画の期間は、平成27(2015)～31(2019)年度までの5年間とします。

# 1章 地区の概要

## 1 位置・面積

本地区は、三原市大和地域の西部に位置しており、面積は約23.3km<sup>2</sup>です。

大和支所までは、車を利用した場合約10分、三原市中心部までは約40分です。また、スーパーや病院のある和木地区中心部まで約5分、下徳良地区まで約10分です。

図1 榎梨地区の位置



## 2 人口・世帯数

### (1) 人口の動向

本地区の総人口を国勢調査で見ると、平成22(2010)年で1,024人になっており、過去5年間で約14%減少しています。

年齢4区分別人口をみると、平成22(2010)年で0～14歳107人、15～64歳503人、65～74歳163人、75歳以上251人になっており、65歳以上の割合は約40%になっています。

年齢別にみると、過去5年間で75歳未満の各年齢層は減少、75歳以上は増加となっています。

表1 人口の推移 (単位：人，%)

区 分		平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増 減
実数	0～14歳	147	107	△ 40
	15～64歳	608	503	△ 105
	65～74歳	222	163	△ 59
	75歳以上	214	251	37
	合計	1,191	1,024	△ 167
割合	0～14歳	12.3	10.4	△ 1.9
	15～64歳	51.0	49.1	△ 1.9
	65～74歳	18.6	15.9	△ 2.7
	75歳以上	18.0	24.5	6.5

### (2) 世帯数の動向

本地区の世帯数を国勢調査で見ると、平成22(2010)年で413世帯になっており、過去5年間で約5%減少しています。

1世帯当たり世帯人員は平成22(2010)年で2.48人になっており、過去5年間で0.26人減少しています。

表2 世帯数等の推移

区 分	平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増 減
世帯数 (世帯)	434	413	△ 21
世帯人員 (人)	2.74	2.48	△ 0.26

### (3) 人口の将来見通し

人口の将来見通しを平成17(2005)年と平成22(2010)年の国勢調査人口をもとに、年齢コーホート推移率法で推計すると、平成31(2019)年で約740人、平成36(2024)年で約610人になり、平成22(2010)年と平成36(2024)年を比較すると約420人と大幅な減少が見込まれます。

年齢別に平成22(2010)年と平成36(2024)年の人口を比較すると、0～14歳が107人から22人、15～64歳が503人から256人、65～74歳が163人から124人、75歳以上が251人から206人と、各年齢層ともに減少するものと見込まれ、特に、0～14歳の減少が著しくなっています。

また、高齢化率は、平成31(2019)年約50%、平成36(2024)年約54%と上昇するものと見込まれます。

図2 年齢区分別人口推計

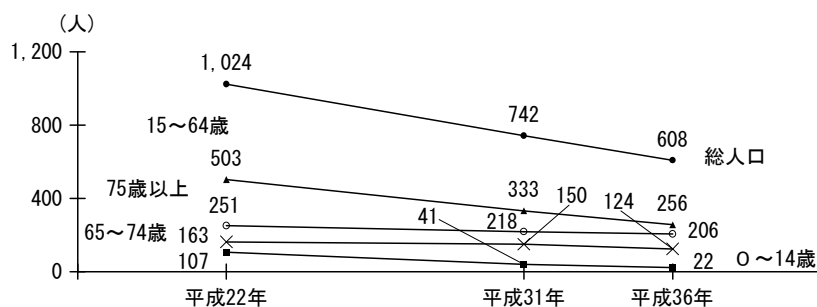


図3 年齢区分別人口割合

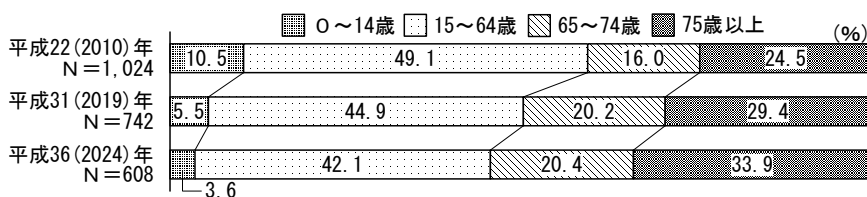
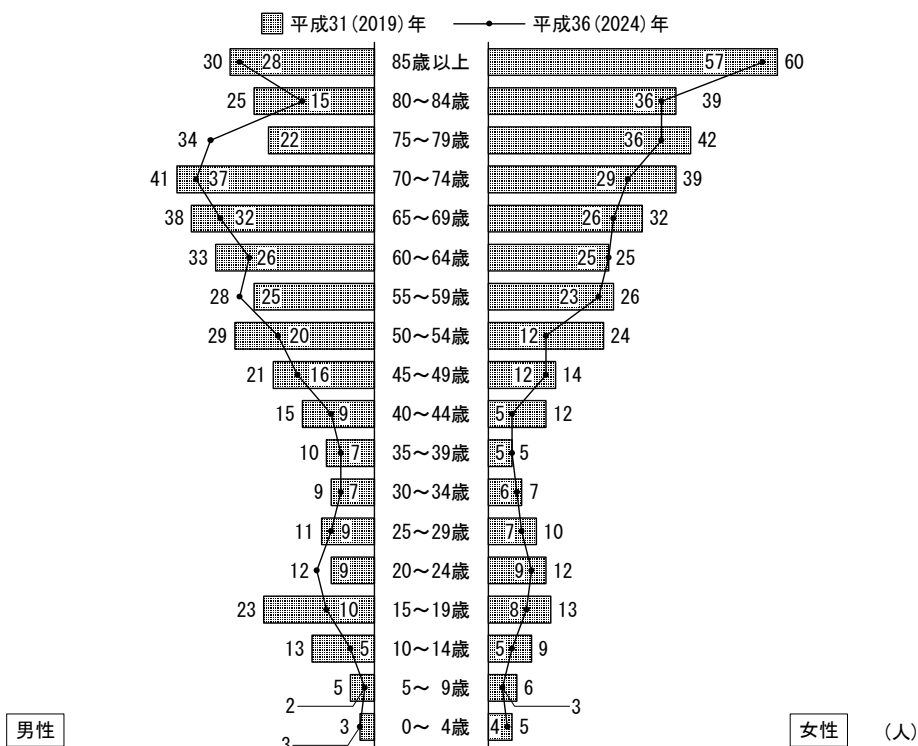


図4 男女別5歳階級別人口





### 3 道路・交通

道路網は、国道432号が本地区の東端を走り、三原市中心部と大和支所のある下徳良地区を連絡しています。また、国道486号及び一般県道三和大和線が走り、地区内の骨格を形成しています。

地区の公共交通としては、世羅町中心部とJR山陽本線河内駅を連絡する路線バスが国道432号を運行しているほか、榎梨地区全域と和木地区中心部を連絡する大和ふれあいタクシーが週3日運行しています。

### 4 主要公共公益施設等

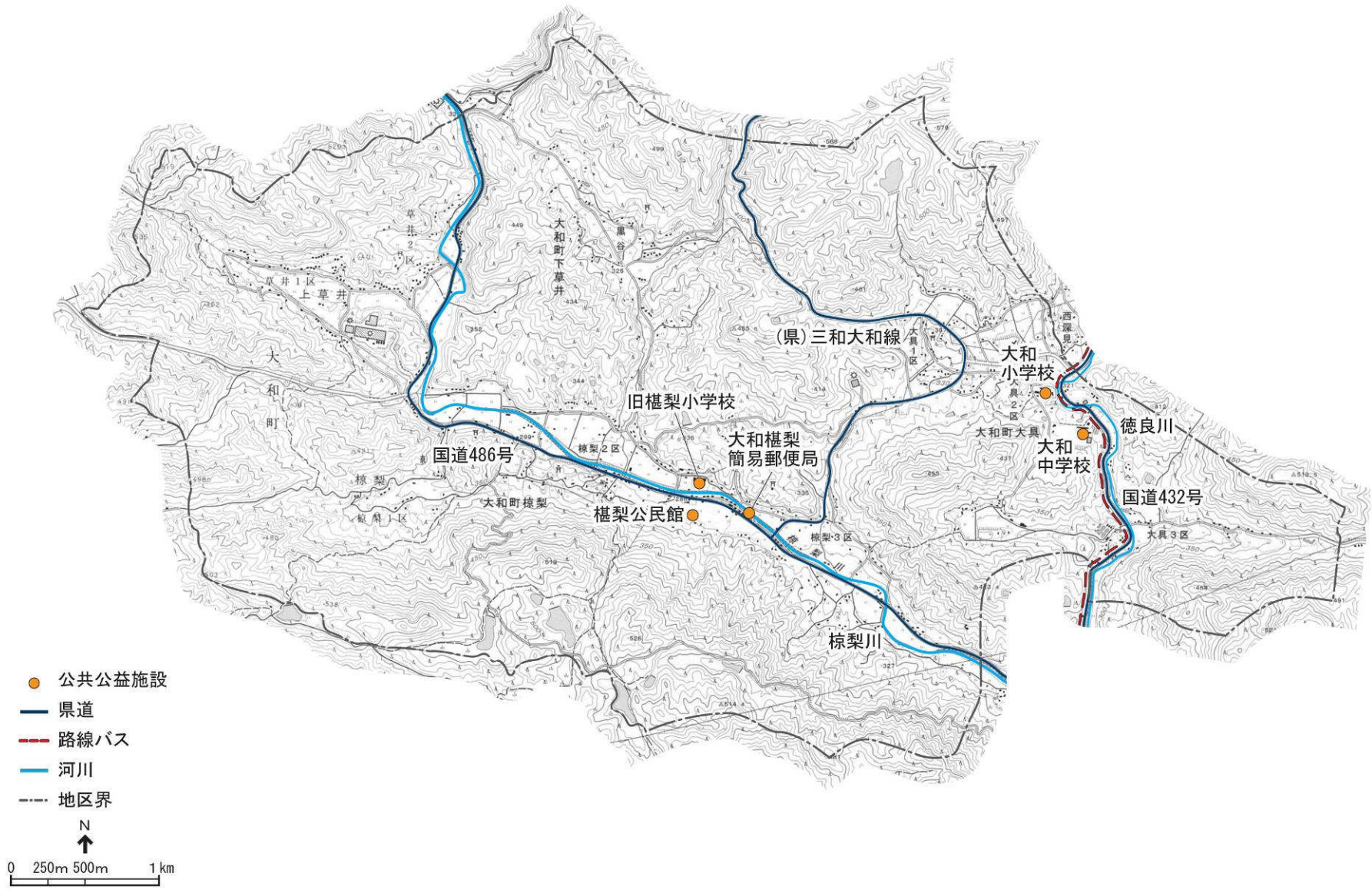
本地区は棕梨，上草井，下草井，大具の4集落で構成されています。

公共公益施設は、教育施設として大和地域を校区とする大和小学校と大和中学校，文化集会施設として榎梨公民館があります。その他に、大和榎梨簡易郵便局があるほか、旧榎梨小学校があります。

表3 公共公益施設等

区 分	名 称
教育施設	大和小学校
	大和中学校
文化集会施設	榎梨公民館
郵便局	大和榎梨簡易郵便局
河川	棕梨川
	徳良川
	黒谷川
道路・交通	国道432号
	国道486号
	一般県道三和大和線
	路線バス（河内・甲山線）
	大和ふれあいタクシー
その他	旧榎梨小学校

図5 地区の公共公益施設等



## 2章 地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要

### 1 調査概要

本調査は、地区内住民（16歳以上）の意見を把握し、「ふるさとくわなし元気プラン」の策定に反映するために行ったもので、対象者全員に調査票を配布しました。その結果、調査票の回収件数は701件でした。

### 2 調査結果

#### (1) 回答者自身について

回答者の性別は、「男性」45.4%、「女性」48.6%とほぼ同程度です。

年齢は、「75～84歳」が21.7%で最も割合が高く、次いで「65～74歳」21.1%、「50歳代」16.1%、「60～64歳」10.0%、「30歳代」9.0%、「40歳代」8.8%、「85歳以上」6.0%、「20歳代」3.7%、「19歳以下」2.7%の順になっており、65歳以上が約5割を占めています。

家族構成は、「二世世代（子どもと同居）」が22.0%で最も割合が高く、次いで「二世世代（親と同居）」19.7%、「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」18.5%、「三世世代・四世代」17.3%、「一人暮らし（65歳以上）」8.8%、「夫婦二人暮らし（夫婦ともに65歳未満）」4.4%、「一人暮らし（65歳未満）」2.6%の順になっており、「一人暮らし（65歳以上）」と「夫婦二人暮らし（二人とも又はどちらかが65歳以上）」を合わせた割合が約3割を占めています。

図6 性別

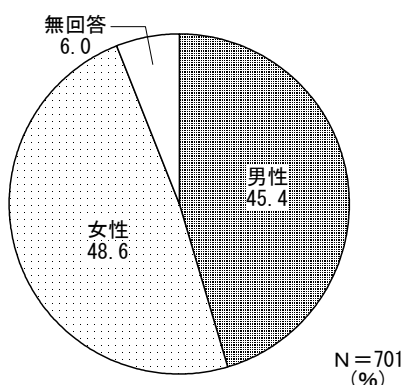


図7 年齢

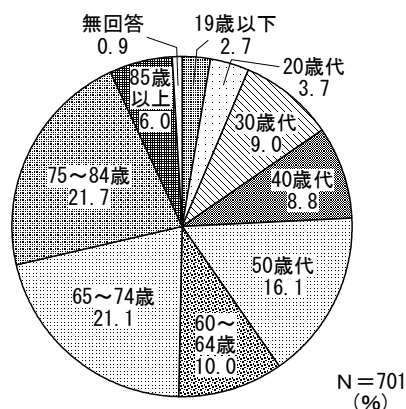
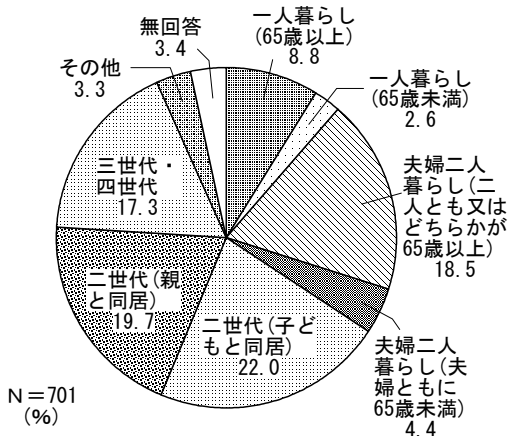


図8 家族構成

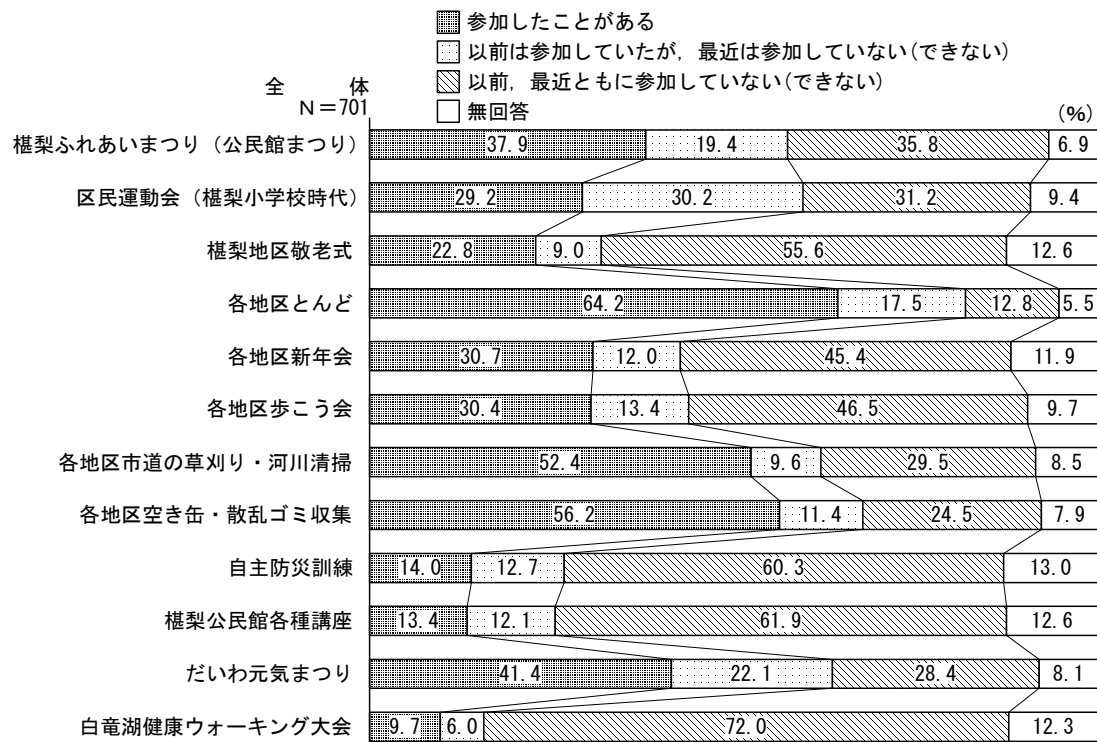


## (2) 行事・活動への参加状況と満足度

### ア 行事・活動への参加状況

行事・活動へ「参加したことがある」と答えた人をみると、「各地区とんど」の割合が64.2%で最も割合が高く、次いで「各地区空き缶・散乱ゴミ収集」56.2%、「各地区市道の草刈り・河川清掃」52.4%の順で、これら3項目が50%以上になっています。一方、「白竜湖健康ウォーキング大会」、「榎梨公民館各種講座」、「自主防災訓練」の3項目は20%未満と低い割合になっています。

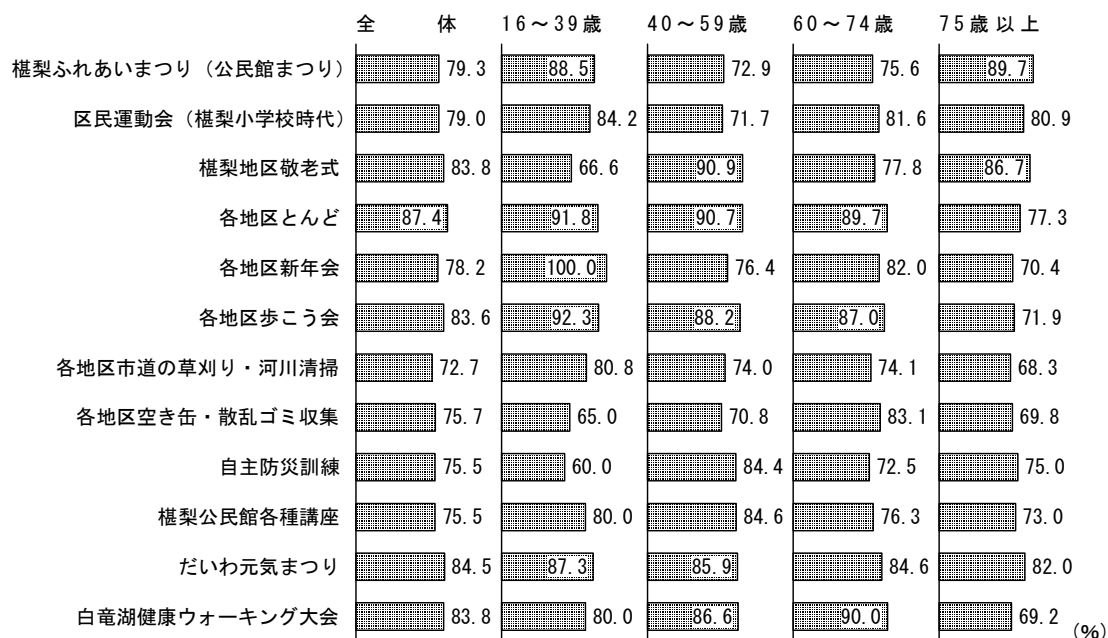
図9 行事・活動への参加状況



## イ 行事・活動に参加した人の満足度

行事や活動へ参加している人の満足度（「良い」と「やや良い」を合わせた割合）をみると、80%台5項目、70%台7項目で、全ての項目で満足度が高くなっています。

図10 行事・活動に参加した人の満足度



## ウ 復活させたい行事・イベント

復活させたい行事・イベントが「ある」と答えた人は8.1%で、その内容は「白竜湖花火大会」を挙げた人が26件で最も多く、次いで「区民運動会」7件、「榎梨地区盆踊り大会」3件などの順です。

## エ 新たに開催してほしい行事・イベント

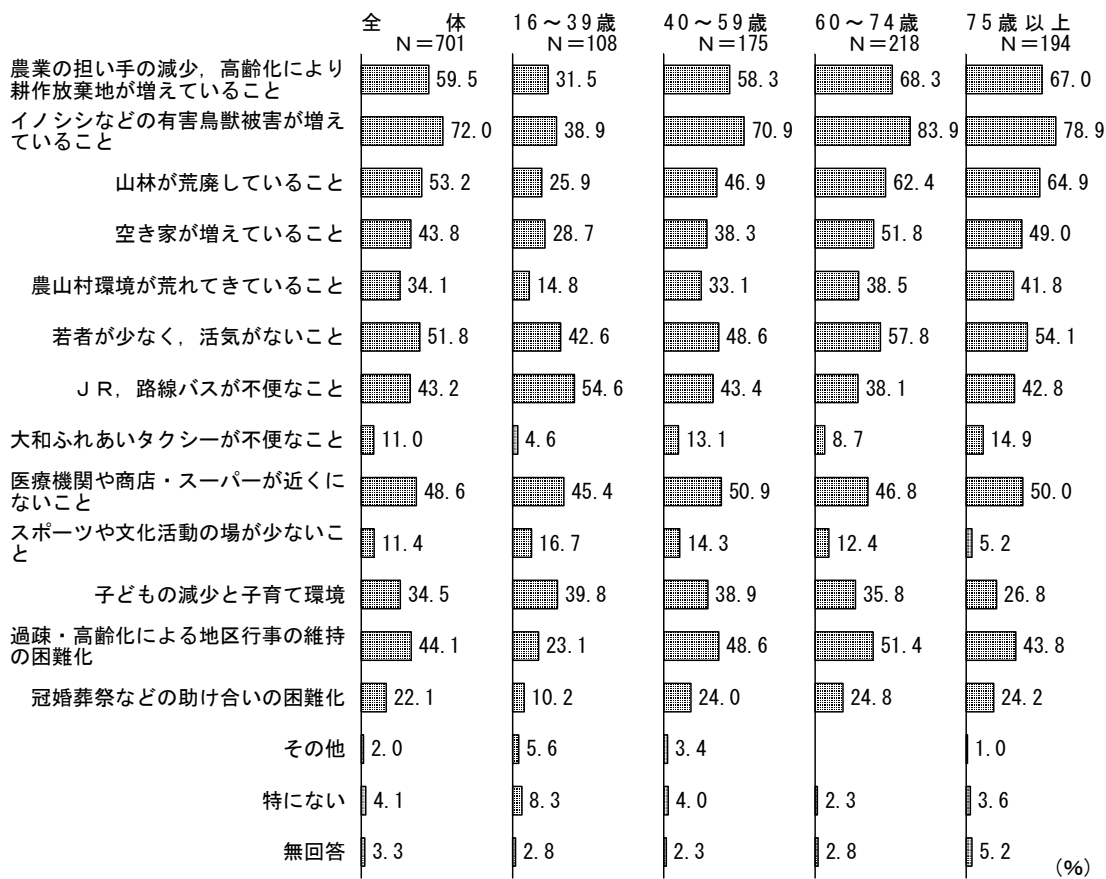
新たに開催してほしい行事・イベントが「ある」と答えた人は5.6%で、その内容は「白竜湖花火大会」が10件で最も多く、次いで「榎梨地区盆踊り大会」7件、「区民運動会」2件の順で、復活させたい行事・イベントと同様のものが挙げられています。

### (3) 地区の現状や将来のことでの不安や今後の居住意向

#### ア 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること

地区の現状や将来のことでの不安に思っていることは、「イノシシなどの有害鳥獣被害が増えていること」が72.0%で最も割合が高く、唯一70%を超えています。次いで「農業の担い手の減少、高齢化により耕作放棄地が増えていること」59.5%、「山林が荒廃していること」53.2%、「若者が少なく、活気がないこと」51.8%の順で、これら3項目が50%台になっています。その他では、「医療機関や商店・スーパーが近くにないこと」48.6%、「過疎・高齢化による地区行事の維持の困難化」44.1%、「空き家が増えていること」43.8%などの順です。

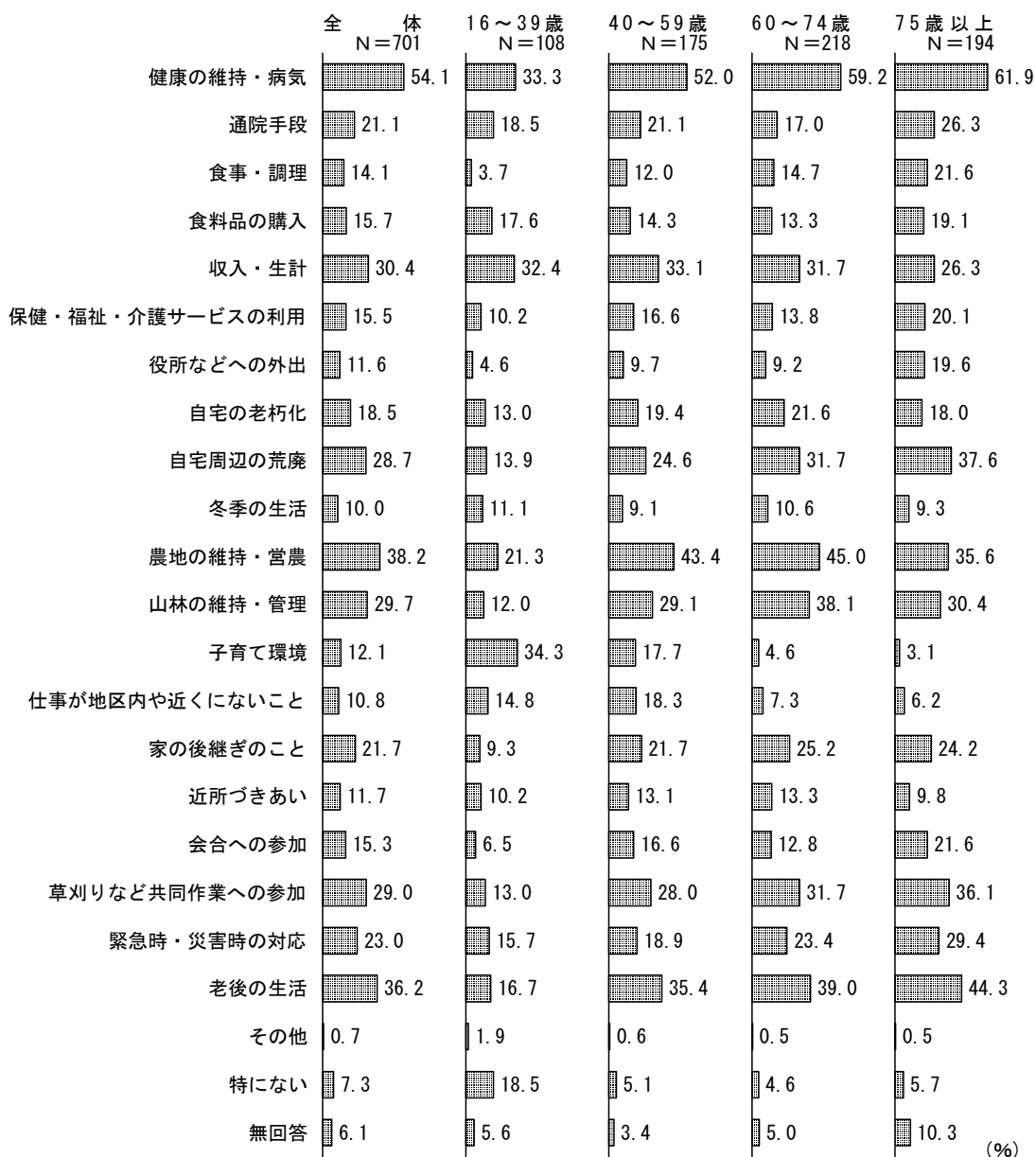
図11 地区の現状や将来のことでの不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



## イ 個人や家族のことで不安に思っていること

個人や家族のことで不安に思っていることは、「健康の維持・病気」が54.1%で最も割合が高く、次いで「農地の維持・営農」38.2%、「老後の生活」36.2%、「収入・生計」30.4%、「山林の維持・管理」29.7%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。

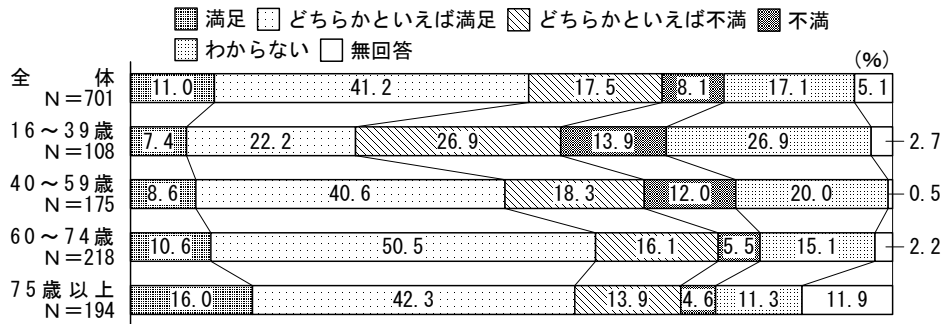
図12 個人や家族のことで不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



### ウ 地区の住みやすさの評価

地区の住みやすさについては、「満足」11.0%、「どちらかといえば満足」41.2%で、これらを合わせた住みやすさに満足している人の割合は52.2%です。

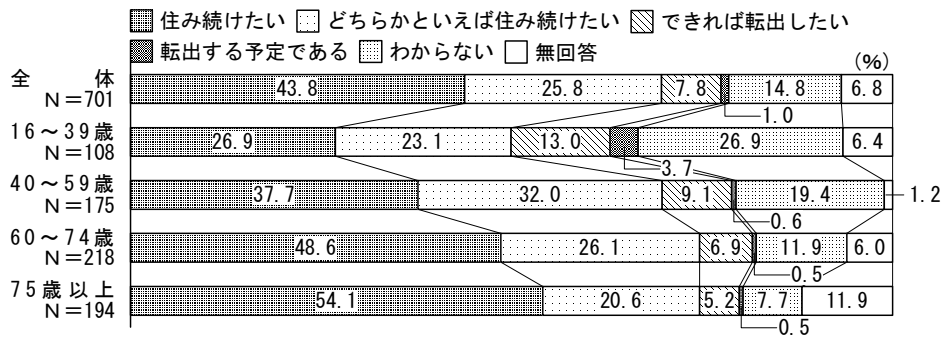
図13 地区の住みやすさの評価



### エ 地区への今後の居留意向

地区への今後の居留意向は、「住み続けたい」43.8%、「どちらかといえば住み続けたい」25.8%で、これらを合わせた地区へ住み続ける意向の人は約7割です。

図14 地区への今後の居留意向

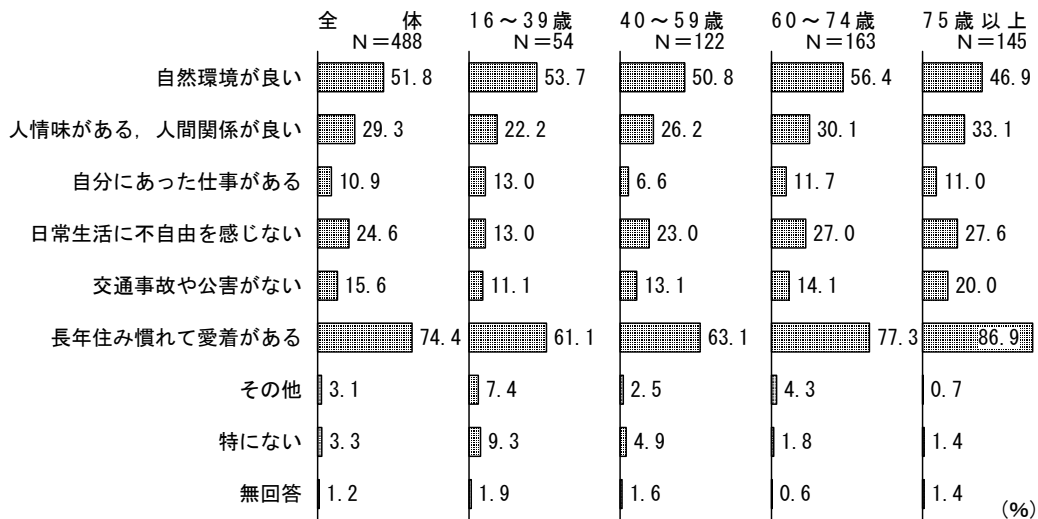




## オ 地区に住み続けたいと思う理由

地区に住み続ける意向のある人の住み続けたいと思う理由は、「長年住み慣れて愛着がある」が74.4%で最も割合が高く、次いで「自然環境が良い」51.8%の順で、この2項目を挙げた人の割合が高くなっています。その他では、「人情味がある，人間関係が良い」29.3%、「日常生活に不自由を感じない」24.6%などの順です。

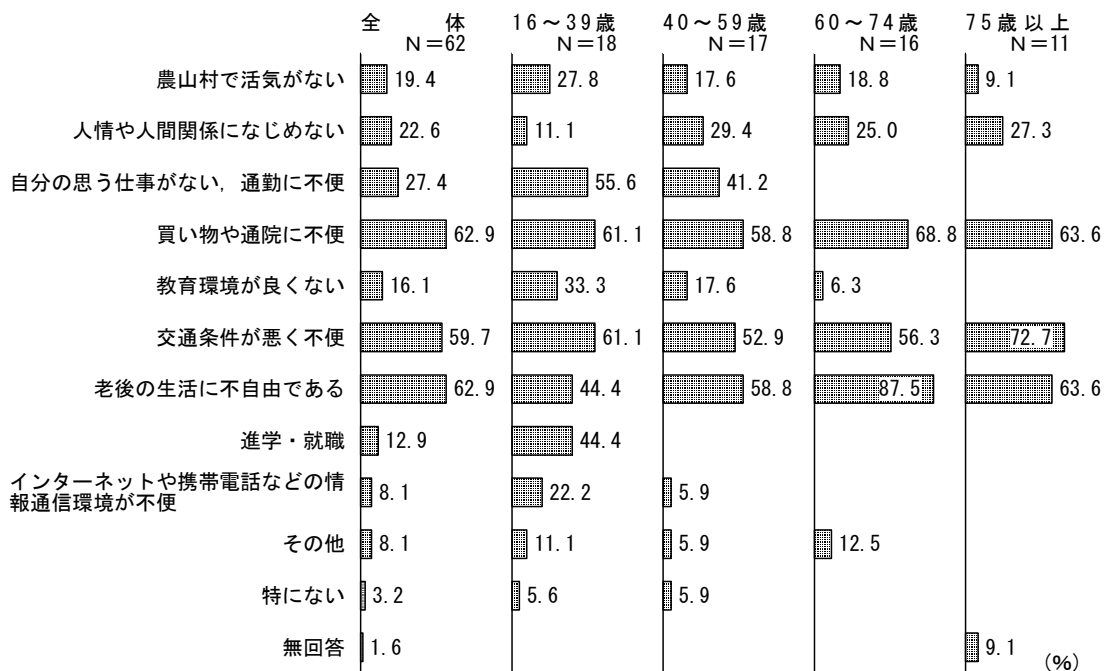
図15 地区に住み続けたいと思う理由（複数回答：いくつでも）



## カ 地区を転出したいと思う理由

地区を転出する意向のある人の地区を転出したいと思う理由は、「買い物や通院に不便」及び「老後の生活に不自由である」が62.9%で最も割合が高く、次いで「交通条件が悪く不便」59.7%の順で、これら3項目を挙げた人の割合が高くなっています。その他では、「自分の思う仕事がない，通勤に不便」27.4%、「人情や人間関係になじめない」22.6%、「農山村で活気がない」19.4%、「教育環境が良くない」16.1%、「進学・就職」12.9%などの順です。

図16 地区を転出したいと思う理由（複数回答：いくつでも）

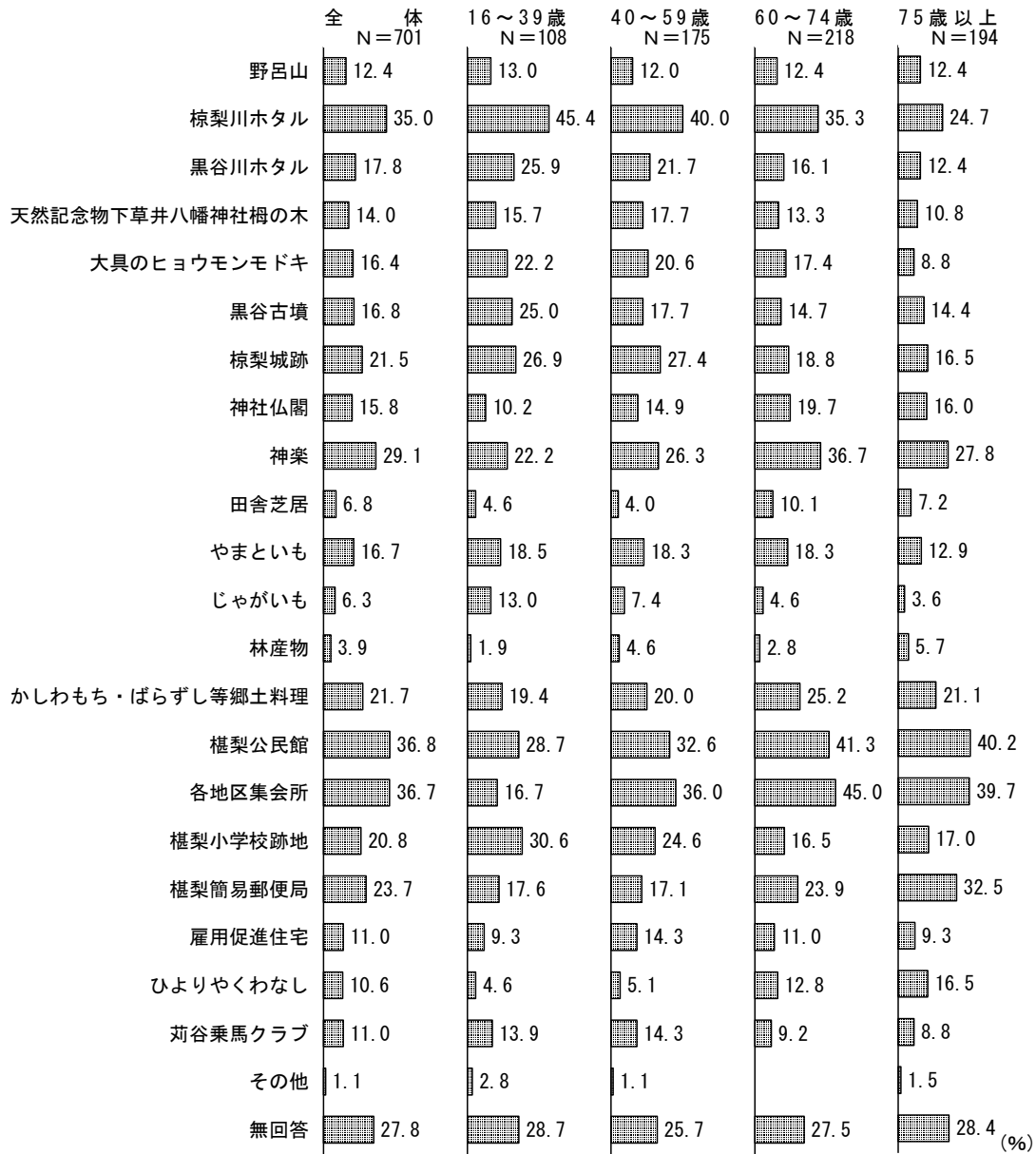


#### (4) 今後の地区づくりについて

##### ア 地区で大事にしたい、活用したい資源

地区で大事にしたい、活用したい資源としては、「榎梨公民館」が36.8%で最も割合が高く、次いで「各地区集会所」36.7%、「椋梨川ホテル」35.0%、「神楽」29.1%、「榎梨簡易郵便局」23.7%の順で、これら項目が上位5位を占めています。

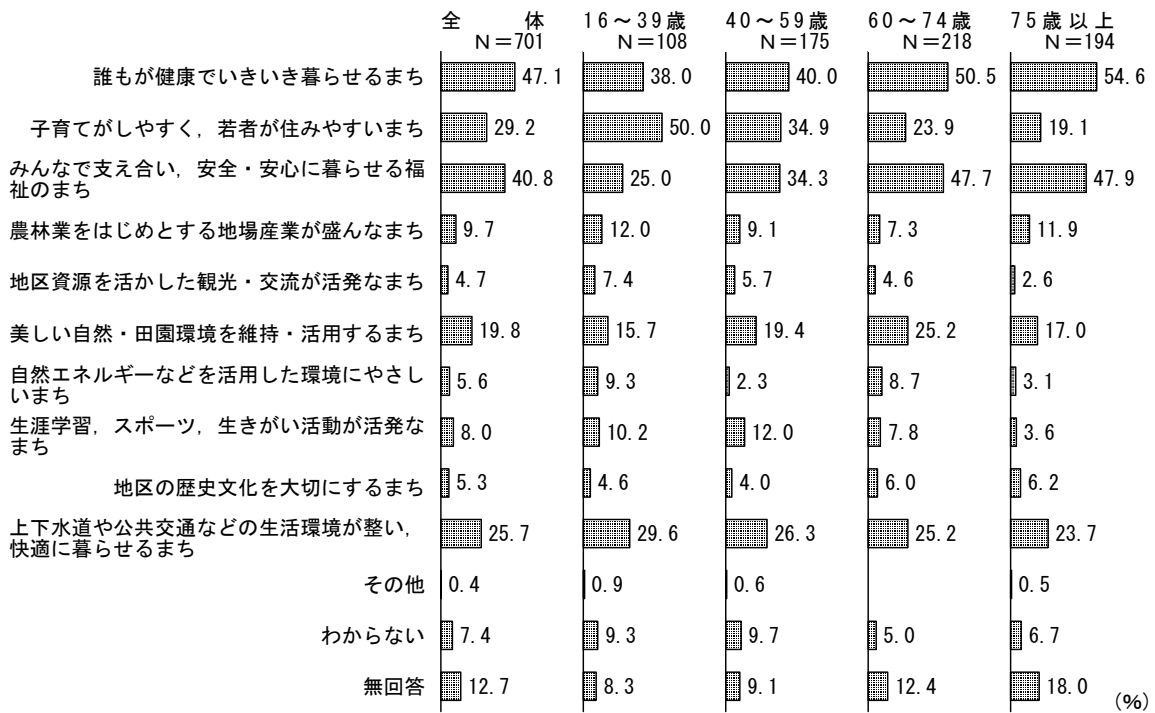
図17 地区で大事にしたい、活用したい資源（複数回答：いくつでも）



## イ 地区の将来像

地区の将来像は、「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」が47.1%で最も割合が高く、次いで「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」40.8%の順で、この2項目を挙げた人の割合が高くなっています。その他では、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」29.2%、「上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち」25.7%、「美しい自然・田園環境を維持・活用するまち」19.8%などの順です。

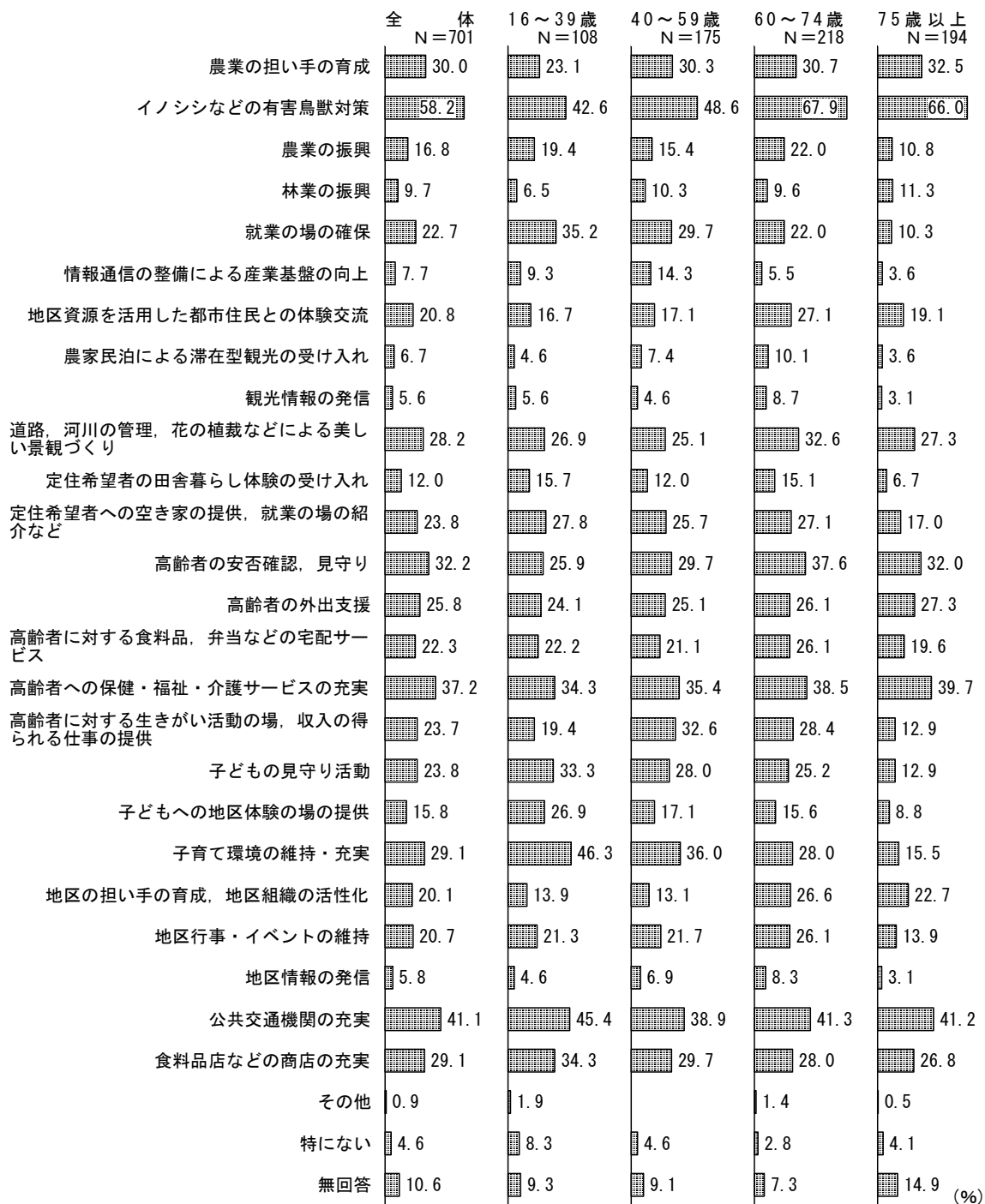
図18 地区の将来像（複数回答：3つ以内）



### ウ 地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと

地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいことは、「イノシシなどの有害鳥獣対策」が58.2%で最も割合が高く、次いで「公共交通機関の充実」41.1%、「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」37.2%、「高齢者の安否確認、見守り」32.2%、「農業の担い手の育成」30.0%の順で、これら項目が上位5位を占めています。その他では、「子育て環境の維持・充実」及び「食料品店などの商店の充実」29.1%、「道路、河川の管理、花の植栽などによる美しい景観づくり」28.2%、「高齢者の外出支援」25.8%などの順です。

図19 地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと（複数回答：いくつでも）

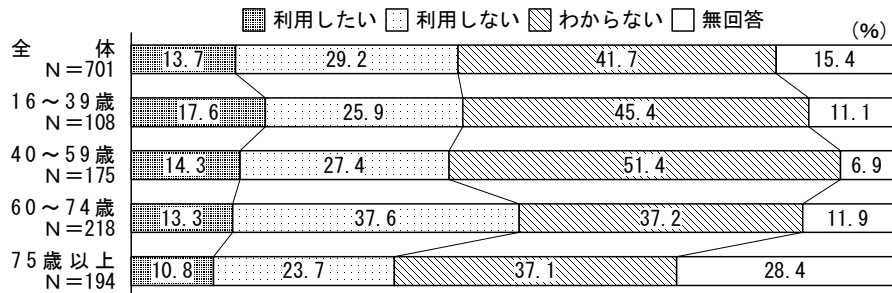


## エ 旧榎梨小学校の利用について

### (ア) 旧榎梨小学校の利用に関する意向

旧榎梨小学校の利用については、「わからない」と答えた人が41.7%で最も割合が高く、次いで「利用しない」29.2%、「利用したい」13.7%の順で、利用しない意向の人が利用したい意向の人の2倍以上になっています。

図20 旧榎梨小学校の利用に関する意向



### (イ) 旧榎梨小学校を利用したい人の具体的な意見

旧榎梨小学校を利用したい人の具体的な意見は、「図書館・資料館」が26件で最も多く、次いで「各種団体の事務局」及び「生涯学習・交流施設（公民館とは別）」16件、「高齢者福祉施設（介護施設、サロン等）」12件、「公民館の移転」10件などの順です。

### (ウ) 旧榎梨小学校を利用しないと答えた人の理由

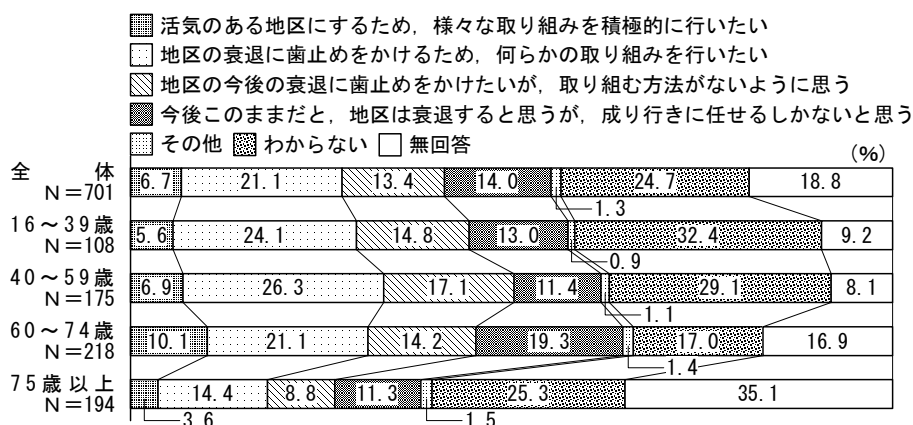
旧榎梨小学校を利用しないと答えた人の理由としては、「維持管理費の地元負担が増える」と答えた人が83件で最も多く、次いで「企業等へ貸与・売却」55件、「施設が大規模すぎる」24件、「利用目的がない、利用する必要がない」9件などの順です。

## (5) 榎梨自治振興会の活動について

### ア 榎梨地区の活性化に向けての取り組み意向

地区の活性化に向けての取り組み意向については、「活気のある地区にするため、様々な取り組みを積極的に行いたい」6.7%、「地区の衰退に歯止めをかけるため、何らかの取り組みを行いたい」21.1%で、これらを合わせた地区の活性化を図るために何らかの取り組みをしたいと考えている人は27.8%です。

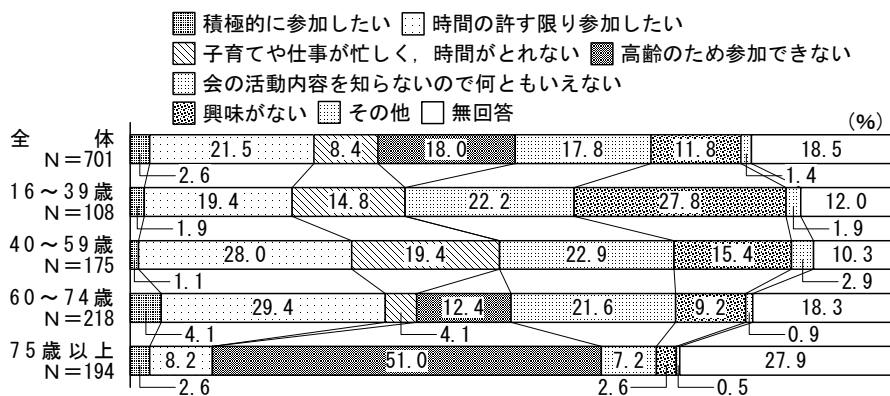
図21 榎梨地区の活性化に向けての取り組み意向



### イ 榎梨自治振興会の活動への参加意向

榎梨自治振興会活動への参加については、「積極的に参加したい」2.6%、「時間の許す限り参加したい」21.5%で、これらを合わせた自治振興会活動へ参加意向のある人は、約1/4です。

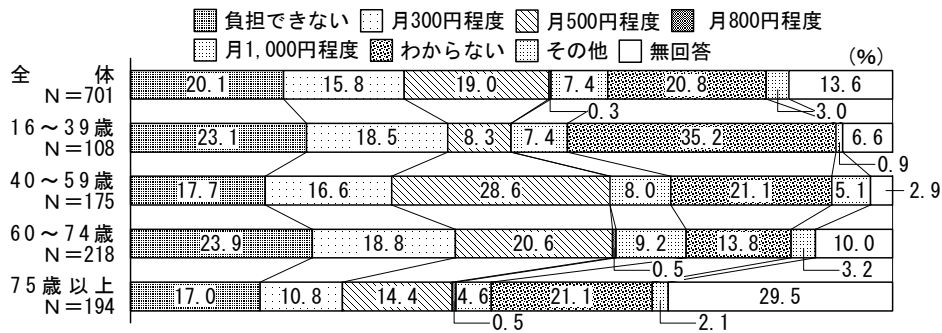
図22 榎梨自治振興会の活動への参加意向



### ウ 榎梨自治振興会の町内会費として負担可能な額

榎梨自治振興会の町内会費として負担可能な額としては、「わからない」と答えた人が20.8%で最も割合が高く、次いで「負担できない」20.1%、「月500円程度」19.0%、「月300円程度」15.8%、「月1,000円程度」7.4%、「月800円程度」0.3%の順で、町内会費を負担する意向の人が42.5%を占めています。負担可能な額としては月300円程度または月500円程度と答えた人の割合が高くなっています。

図23 榎梨自治振興会の町内会費として負担可能な額

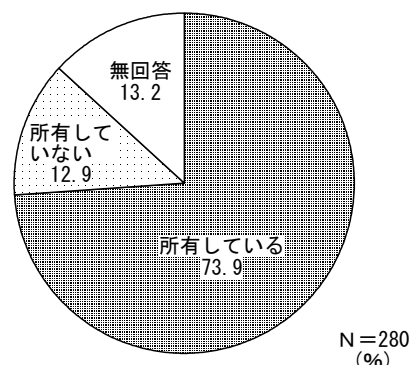


## (6) 農地の耕作状況と今後の耕作意向

### ア 農地の所有状況

世帯主であると答えた方で、農地を「所有している」と答えた人は73.9%です。

図24 農地の所有状況



### イ 農地を所有している人の状況

#### (ア) 農地の現在の耕作状況

農地の現在の耕作状況は、「家族で耕作している」と答えた人が44.9%で最も割合が高く、次いで「家族で耕作せず、他の農家や農事組合法人に耕作を頼んでいる」24.2%、「家族で耕作するとともに、他の農家や農事組合法人に耕作を頼んでいる」20.8%、「耕作を頼む農家や農事組合法人がないので、耕作していない」7.2%の順です。

#### (イ) 農地の今後の耕作意向

農地の今後の耕作意向は、「現在と同様の方法で耕作する」と答えた人が43.0%で最も割合が高く、次いで「家族での耕作をやめ、他の農家や農事組合法人に耕作を頼む」15.9%、「わからない」15.0%、「耕作をやめる」12.1%、「家族での耕作面積を減らし、他の農家や農事組合法人に耕作を頼む面積を増やす」6.3%の順になっており、農事組合法人へ耕作を頼む面積が増加するものと見込まれる一方で、耕作をやめる意向の人が1割以上になっています。

図25 農地の現在の耕作状況

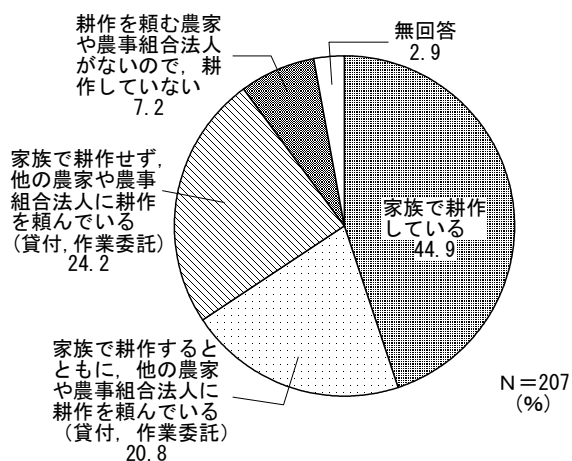
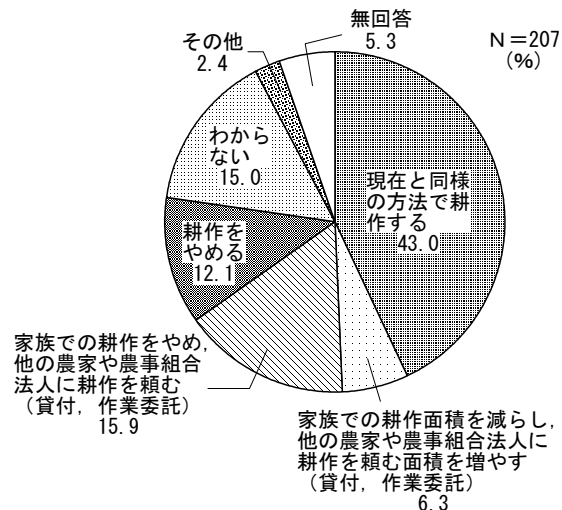


図26 農地の今後の耕作意向





### 3章 地区の魅力・資源と問題点・課題

#### 1 地区の魅力・資源

アンケート調査結果及び意見交換会（ワークショップ）での意見を踏まえて、地区の魅力・資源を整理すると、次のとおりです。

表4 地区の魅力・資源

区分	地区の魅力・資源
自然資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然</li> <li>・秋の紅葉などの景色</li> <li>・空気がきれい，のどか</li> <li>・ヒョウモンモドキ</li> <li>・ミネラルウォーター</li> <li>・棕梨川，黒谷川のホタル，水生生物（地区の児童が旧榎梨小学校前の河川にホタルの幼虫を放流，ホタル観察など），水辺教室</li> <li>・下草井八幡神社ツガノキ，住田クスノキ，イチョウ，花かいどう</li> <li>・野呂池一帯</li> </ul>
歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神社仏閣（棕梨八幡神社，大具八幡神社，上草井八幡神社，下草井八幡神社など）</li> <li>・備後神楽（大人，子ども神楽）</li> <li>・黒谷古墳</li> <li>・黒谷宝篋印塔</li> <li>・棕梨城跡，草井氏居城懸城址，草井藤市の墓</li> <li>・地域にある史跡など（大溝記念碑，塚，屋号，堂さんなど）</li> </ul>
産業資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休耕田</li> <li>・ほ場整備され農地と大規模な農業生産法人</li> <li>・豊かな農産物（おいしい米，野菜，柿，果物など）</li> <li>・黒谷のお茶（鷹の爪（商標））</li> <li>・オタフクソースの工場（酢の原液生産：産業観光）</li> </ul>
観光レクリエーション資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苧谷乗馬クラブ（ホースセラピー）</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土料理（ちらし寿司，柏餅など）</li> <li>・泥りんピックなどの他地区から来訪する人のあるイベントがある</li> <li>・榎梨公民館</li> <li>・旧榎梨小学校</li> </ul>

図27 地区の魅力・資源



## 2 地区の問題点・課題

アンケート調査結果及び意見交換会（ワークショップ）での意見を踏まえて、地区の問題点・課題を整理すると、次のとおりです。

表5 地区の問題点・課題

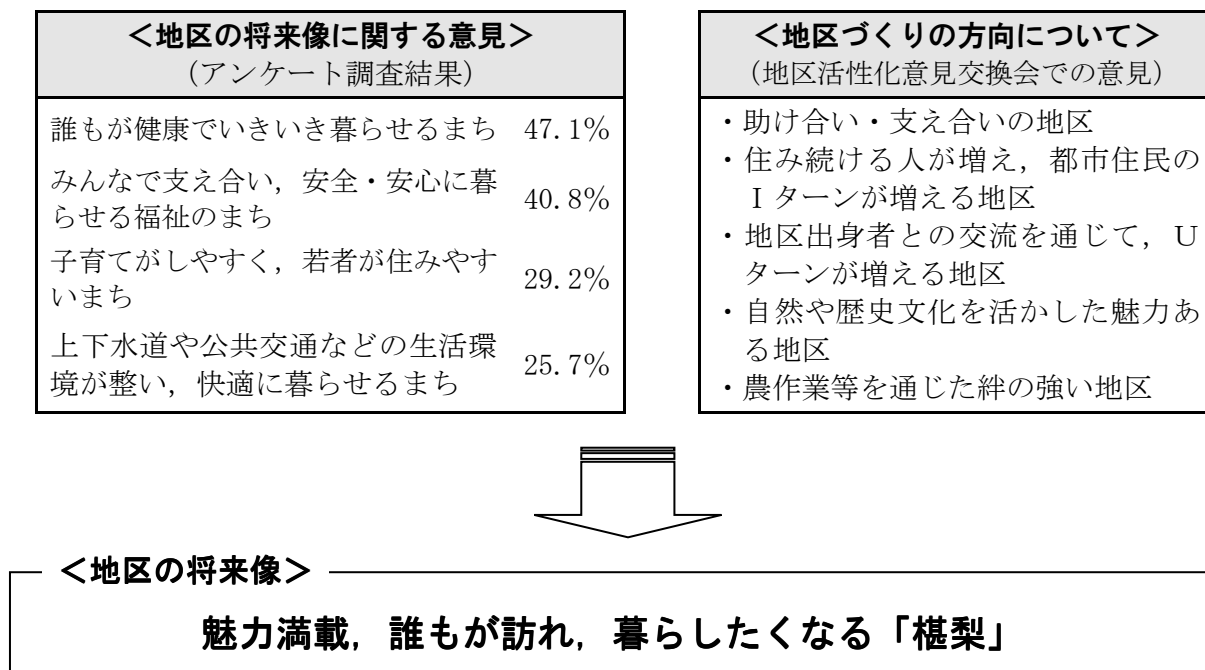
区分	地区の問題点・課題
地区全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少，高齢化・少子化，後継ぎのいない家庭が増加している</li> </ul>
高齢者の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らしをはじめとする高齢者のみの世帯の食事，買い物等の日常生活の不安がある</li> <li>・年金生活で経済的に不安である</li> <li>・加齢に伴う健康への不安がある，認知症が増えている</li> <li>・家，庭の管理が難しくなっている高齢者世帯がある</li> </ul>
定住・子育て支援	<p>&lt;若者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が減少し，地区に活気がない</li> <li>・若者の交流機会がない（同級生が少ない，会わない），独身者がいる</li> <li>・町内で仕事（就業先）の選択肢が少ない，若者が好む仕事がない</li> </ul> <p>&lt;子ども&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児，小学生，中学生が少ない，減少している</li> <li>・子どもの遊ぶ場所，公園がない</li> <li>・小・中学校等の児童・学生数が減少している</li> <li>・高等学校がなく，通学させるのが大変である</li> </ul>
農地・農業	<p>&lt;有害鳥獣被害&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イノシシ，シカ，カラス，タヌキ等による農作物被害が増加している</li> <li>・対策が不十分である</li> </ul> <p>&lt;農業後継者，農地の管理&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業後継者がいない</li> <li>・高齢化により草刈りが困難化するとともに休耕田が増加している</li> </ul> <p>&lt;農業生産&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米価の下落，営農維持が難しくなっている</li> </ul>
林地・林業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松枯れ等が進み，山林の荒廃が進む一方で竹林が増加している</li> </ul>
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大和ふれあいタクシーが利用しにくい</li> <li>・公共交通が不便，自家用車に乗れなくなった時のことが不安である</li> <li>・近くに商店，スーパーがなく，買い物が不便である</li> <li>・医療機関が少ない，小児科がない，専門医がない</li> <li>・榎梨地区に葬儀場所がない</li> <li>・棕梨川が氾濫することがある（大雨，台風，梅雨時）</li> </ul>
地区活動	<p>&lt;地区活動・近隣関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化に伴い地区活動の担い手が減少している</li> <li>・高齢化に伴い自治振興会の意思決定に時間を要する</li> <li>・一人が複数の役を引き受けている</li> <li>・近隣関係が希薄化している</li> <li>・世代ごとに集まる機会がほとんどない</li> <li>・区の行事への参加者が固定化している</li> <li>・高齢化に伴い草刈り等の共同作業への参加者が減少している</li> </ul> <p>&lt;歴史文化の継承&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・備後神楽（大人，子ども神楽）など地区の歴史文化を継承する必要がある</li> </ul> <p>&lt;行事・祭り&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事・祭りへの参加者が固定化している</li> <li>・行事・祭りが多すぎる</li> </ul>

## 4章 ふるさとくわなし元気プラン

### 1 地区の将来像

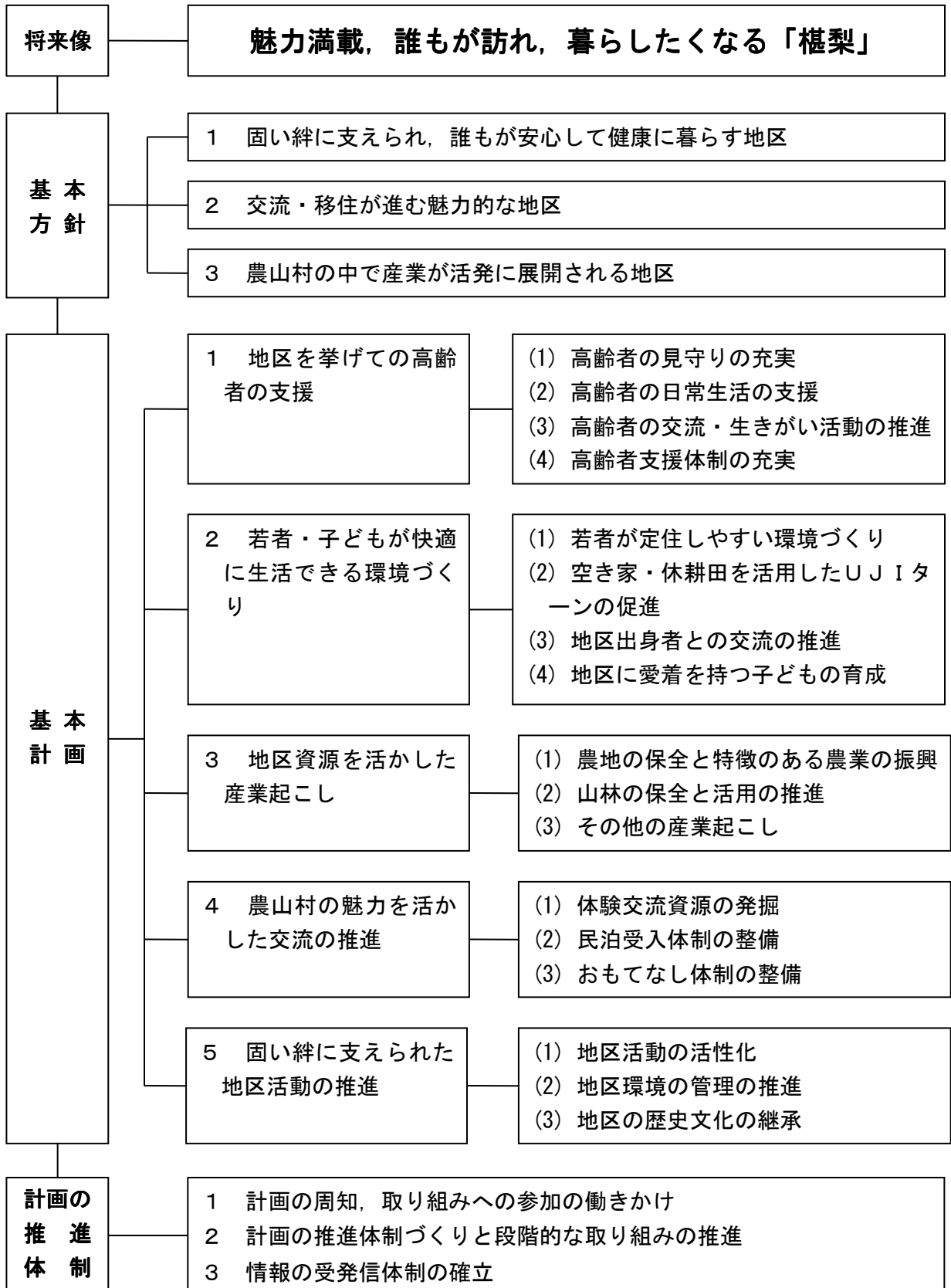
地区の将来像は、住民アンケート結果での地区の将来像に関する意見と地区活性化意見交換会（ワークショップ）での地区づくりの方向に関する意見を踏まえて、「魅力満載，誰もが訪れ，暮らしたくなる「樫梨」」を掲げます。

図28 地区の将来像



地区の将来像の実現に向けて、地区づくりの基本方針、基本計画及び計画の推進体制を次のように掲げます。

図29 地区づくりの体系



## 2 ふるさとくわなし元気プランの基本方針

地区の将来像を実現するために、3つの基本方針を掲げます。

### 1 固い絆に支えられ、誰もが安心して健康に暮らす地区

- ・ 集落相互の結びつきが強い、助け合い・支え合いの地区
- ・ 世代間交流が緊密で、地区の歴史文化が継承される地区
- ・ 高齢者をはじめとする誰もが安全安心に暮らせる地区
- ・ 地区に愛着を持ち、定住する住民が多い地区

### 2 交流・移住が進む魅力的な地区

- ・ 田舎暮らし、自然・歴史文化体験などを通じて都市住民などとの交流が活発な地区
- ・ 地区出身者との交流が活発な地区
- ・ U J I ターン希望者が移住しやすい地区
- ・ 自然・歴史文化資源を活用した体験交流が活発な地区
- ・ 来訪客を温かくもてなす地区

### 3 農山村の中で産業が活発に展開される地区

- ・ 農業生産法人、新規就農者などの担い手により、多彩な農業が展開される地区
- ・ 林地が保全、活用されている地区
- ・ 地区資源を活かした新たな事業が展開される地区

### 3 ふるさとくわなし元気プランの基本計画

地区の将来像及び基本方針を踏まえて、地区づくりの基本計画において5つの柱と主な取り組みを掲げます。

この内容はアンケート調査結果，地区活性化意見交換会（ワークショップ）での意見をもとにとりまとめたものです。

## 1 地区を挙げての高齢者の支援

### (1) 高齢者の見守りの充実

- ・近所同士の声かけを働きかけます。
- ・地区での高齢者の見回り（見守りサポート）体制を充実します。

### (2) 高齢者の日常生活の支援

- ・通院，買い物に対する支援を行います。
- ・高齢者世帯の家，庭回りの清掃，ごみ出しなどの困りごとを「おたすけ隊」を設置して支援します。
- ・集落（榎梨，大具，上草井，下草井）ごとに，高齢者が食事できる場所づくりを行います。

### (3) 高齢者の交流・生きがい活動の推進

- ・高齢者が気軽に集まり，困りごとを言えるサロンづくりを行います。
- ・高齢者の健康づくりを支援します。
- ・子どもとの交流（凧作り，うどん，そば打ち体験等），保護者を含めた世代間交流の場づくりを行います。

### (4) 高齢者支援体制の充実

- ・榎梨自治振興会，くわのみ会をはじめとする地区の様々な団体が役割分担して，高齢者の生活支援を行う体制を充実します。
- ・高齢者支援の活動拠点（常設サロン）の確保について検討します。

表6 各団体の役割（案）

支援団体	役割
自治振興会	・高齢者支援の総合的な体制づくり，支援の調整 ・外出手段，買い物支援
地区社会福祉協議会	・見守り，相談支援
民生委員・児童委員	・見守り，相談支援
くわのみ会	・サロンの運営
ひまわり会，女性会，ヘルスメイト	・食事提供，サロン等への参加の働きかけ
三原市社会福祉協議会	・高齢者の支援情報

表7 具体的に取り組む事業

事業名	・高齢者の安全安心な暮らしサポート事業
事業の目的	・高齢者の日常生活の支援
事業の対象	・支援を必要とする一人暮らしをはじめとする高齢者のみの世帯
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者支援体制づくり</li> <li>・通院，買い物等の外出支援（大和ふれあいタクシーより便利な地区住民による有料ボランティア運行の仕組みづくり）</li> <li>・高齢者おたすけ隊の設置（有料ボランティア） （家の掃除，庭，墓等の草刈り，清掃等）</li> <li>・高齢者が集い，食事ができる場所づくりまたは配食サービスの実施</li> </ul>
事業の年次計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度：高齢者支援体制の確立，事業実施場所の確保</li> <li>・平成28年度：新体制で高齢者支援の開始</li> </ul>
連携する組織等	・くわのみ会を核とする地区の関係団体



## 2 若者・子どもが快適に生活できる環境づくり

### (1) 若者が定住しやすい環境づくり

#### ア 就業の場の確保の支援

- ・若者が働ける場所の確保を地区においても支援します。
- ・若者に魅力のある企業誘致（先端産業）に協力するとともに、地区内の企業の雇用情報を収集し、関係住民に情報提供します。

#### イ 若者の出会い、交流の場の確保

- ・若い男女が出会い、交流する場（スポーツ観戦、カヌー、ウィンドサーフィン、パークゴルフ、フリーマーケット、夜市等）を増やします。
- ・他地区から来訪客のあるイベントに婚活要素を盛り込み、若者の出会いの場づくりを行います。

### (2) 空き家・休耕田を活用したU J I ターンの促進

#### ア 体験宿泊施設（ゲストハウス）の整備と多様な体験の提供

- ・空き家を田舎移住希望者向けの体験宿泊施設（ゲストハウス）として整備し、地区での多様な体験の提供を通じて地区へ移住するきっかけづくりを行います。

#### イ 地区空き家バンクの設立

- ・地区で空き家バンクの運営（空き家の把握、調査、所有者の確認、賃貸・売却等の意向把握、市の空き家バンクと連携した移住希望者の募集等）に取り組みます。
- ・移住希望者が空き家を借りやすい条件づくり（低家賃、無償での貸出、屋内の修繕が自由にできるように所有者と調整する等）に取り組みます。
- ・U J I ターン希望者に対する地区での相談体制を確立します。

#### ウ 就業の場の提供

- ・空き家にあわせて菜園づくり、農業をしたい人に農地の斡旋を行います。
- ・地区のニーズに対応した様々な仕事（農作業、草刈り、高齢者の支援等）を斡旋し、所得確保の支援を行います。

### (3) 地区出身者との交流の推進

- ・地区出身者がUターンしやすい環境づくり（地区情報の発信、Uターンに関する相談支援等）を行います。
- ・地区出身者に行事・祭りの年間スケジュール表を送付し、行事・祭りに合わせた帰省を働きかけます。
- ・盆と正月に同窓会、クラス会（小学校時代等）を定期的を開催し、地区出身者との交流を強化します。

#### **(4) 地区に愛着を持つ子どもの育成**

- ・地区に住む子どもの絆づくりを推進するために、子ども同士の交流の場を増やします。
- ・子どもが楽しんで参加できるイベントや、幼児・小学生を巻き込んだイベントづくりを行います。(保護者が付いて来て参加者が増え、盛り上がる)
- ・地区の行事・祭りに住民が積極的に参加するように働きかけます。
- ・地区の伝統的な体験(蛍かごづくり等)を、高齢者と連携して子どもに継承します。

### 3 地区資源を活かした産業起こし

#### (1) 農地の保全と特徴のある農業の振興

##### ア 有害鳥獣被害防止対策

- ・有害鳥獣被害防止のための各種補助金を有効に活用し、イノシシ防護柵の設置などを行うとともに、設置後の管理体制を確立します。

##### イ 農地の保全対策

- ・農地の畦畔にムカデ芝、センチピートグラス、芝桜などを植え、雑草を防止します。
- ・都市住民を対象に草刈り応援ツアーを企画・募集し、草刈りの担い手として活用します。
- ・中山間地域等直接支払制度などの補助金を活用して、草刈りを行います。
- ・休耕田の草刈り対策として、羊の飼養を行います。

##### ウ 担い手の確保、育成

- ・農地中間管理機構を活用して、農地の集約化に取り組みます。
- ・高齢化している農家を支援するため、地区全体を対象として農業生産法人が農地を管理する体制づくりに取り組みます。
- ・農業に関わっていない地区住民、都市住民を対象として、農業体験及び農業研修事業を実施し、農業への関心を醸成するとともに担い手の確保、育成に結びつけます。
- ・地区で若者の新規就農を受け入れる体制づくりを行うとともに、広域的なPR活動（特に農業女子の募集）を行います。
- ・都市住民が気楽に農業に参入できる環境づくり（市民農園の設置、農地の管理、農作業の支援、宿泊場所の提供等）を行います。
- ・農業生産法人において、若者の雇用を働きかけます。
- ・既存の支援制度（UIターン就農支援：広島県）を活用し、若者の担い手の確保に地区を挙げて推進します。

##### エ 特徴のある農業の推進

##### (ア) 農産物のブランド化の推進

- ・農業の魅力づくりに取り組みます。
- ・減農薬、無農薬野菜の栽培によるブランド化、高付加価値化を農業生産法人と連携して推進します。

##### (イ) 新たな農業の展開

- ・黒谷の茶栽培を復活し、「鷹の爪」の商標での販売を行うほか、名水と黒谷のお茶をコラボレーションした商品づくりを行います。
- ・野菜、果樹、薬草、そばなどの新たな品目の導入による特産品づくりを行います。
- ・果樹のオーナー制度の導入など、観光農園の運営を検討します。

#### (ウ) 農産物の多様な販売ルートの確保

- ・消費者との直接取引（産直）を推進し、農業所得の向上に結びつけます。
- ・JAへ出荷できない農産物を集荷して、土付きのまま道の駅（よがんす白竜，みはら神明の里）などで販売します。
- ・しめ縄，わら細工の材料，肥料などに活用される稲わらを販売します。

#### (エ) 農家レストランの設置，運営

- ・地場食材を活用した農家レストランの設置，運営に取り組みます。
- ・捕獲したイノシシの肉を活用したジビエ料理の提供に取り組みます。

表8 具体的に取り組む事業

事業名	・休耕田の管理，活用及び地区環境保全事業
事業の目的	・羊の飼養による休耕田の草刈り対策の推進
事業の対象	・休耕田
事業の内容	・休耕田を活用して羊の飼養牧場を作り，羊に休耕田や畦の草を食べさせる。 ・羊及び羊の毛を活用した製品づくり，都市住民等の交流事業を行う ・羊による休耕田，畦の管理と合わせて，地区環境の保全活動を行う。 （農地の畦へ芝桜等の植栽，道路・河川の清掃活動等）
事業の年次計画	<平成27年度> ・モデル的に休耕田において羊を飼養し，効果の検証 <平成28年度> ・羊飼養農家の拡大による休耕田の草刈りの推進 ・羊及び羊毛を活用した都市住民との交流事業の実施 ・羊及び羊毛を活用した製品づくりと販売の展開
連携する組織等	・農業生産法人，農家

## (2) 山林の保全と活用の推進

### ア 山林の保全・林業の振興

- ・山林整備を積極的に行います。
- ・山林の手入れをする人を雇用に結び付けます。

### イ 林業の振興

#### (ア) 竹林の活用

- ・竹細工工房を設置し，竹のチップ化（機械導入），竹炭，竹酢などを製造，販売します。
- ・良質の竹林づくりを行います。

#### (イ) 間伐材の活用

- ・薪ストーブの復活・普及と薪ストーブ用の薪づくりを行います。

### (ウ) その他の山林の活用

- ・山菜の産地とするとともに加工品を製造します。
- ・里山整備と合わせて椎茸栽培に取り組み、販売します。都市住民の体験交流メニューとして、ほだ木へ椎茸菌の植菌、成長した椎茸の収穫体験などを提供します。また、椎茸が成長する過程を自治振興会のホームページで情報発信します。
- ・マツタケ山の復活に取り組みます。
- ・料理の添え物販売（モミジ、柿の葉等）体制づくりに取り組みます。
- ・荒れた山林に栗などを植樹し、子どもの里山体験の場として提供します。

表9 具体的に取り組む事業

事業名	・くわなし里山再生事業
事業の目的	・里山の再生と地区の子どもをはじめとする住民，都市住民の山林管理に対する関心の醸成
事業の対象	・地区内の里山
事業の内容	<p>&lt;準備段階&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治振興会の中に里山再生推進部会を設置</li> <li>・里山再生推進部会が活動計画を作成し，大和小・中学校の児童・生徒，地区住民及び都市住民と連携して事業に取り組む</li> <li>・里山再生に取り組む山林の確保（大和小・中学校と連携した取り組みを行うことから，小中学校に隣接する山林）</li> </ul> <p>&lt;里山再生事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山林の間伐，保育作業</li> <li>・間伐材を活用した薪及び竹炭づくり，竹細工製品の製造，販売</li> <li>・山林での椎茸栽培，販売</li> <li>・里山管理を通じた都市住民との交流（ほだ木への椎茸菌の植菌，生椎茸の収穫体験，持ち帰り、バーベキュー等）</li> </ul>
事業の年次計画	<p>&lt;平成27年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の設立，管理する里山の確保，先進地視察</li> </ul> <p>&lt;平成28年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区住民による山林の間伐，保育作業，間伐材を活用した薪，竹炭，竹細工等の製品づくり</li> </ul> <p>&lt;平成29年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山林の間伐，保育作業，都市住民との交流事業</li> <li>・椎茸栽培，収穫体験</li> <li>・竹炭，竹細工製品づくり</li> </ul>
連携する組織等	・森林組合，子ども会，PTA，女性会等

### (3) その他の産業起こし

- ・名水と休耕田を活用し，カラス貝，ドジョウの養殖を検討します。
- ・どぶろくを作り，特産品化することを検討します。（どぶろく特区の指定と製造販売体制づくり）
- ・田治米の水，お多福の工場を活用し，特産品づくりに取り組みます。

## 4 農山村の魅力を活かした交流の推進

### (1) 体験交流資源の発掘

- ・都市部の子どもへ田舎暮らし、自然・農林業体験を提供し、農山村の暮らし、農林業の大切さについての理解を醸成するとともに、継続的な交流を推進します。
- ・体験交流に係る都市住民のニーズを把握し、体験交流ツアーの企画・実施を行います。

表10 体験交流ニュー

区 分		内 容
自然 体験	自然体験教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然を生かした活動，山・川を活用した体験教室</li> <li>・星空観察会</li> <li>・山登り，サイクリング</li> </ul>
	カブトムシの飼育・イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カブトムシを飼育（温床づくり）し，インターネット等を通して販売するほか，カブトムシを活用して相撲大会等のイベント開催</li> </ul>
	ホタルの里づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童によるホタルの幼虫の飼育，放流の継続</li> <li>・ホタルの研究・観察，ホタル観察マップの作成</li> <li>・ホタル祭り等の開催による都市住民との交流の推進</li> </ul>
歴史文化体験		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の歴史文化体験（住民の歴史文化学習の推進，歴史文化巡りコースづくり等による体験の提供）</li> <li>・他地域の子どもに対する神楽体験</li> </ul>
農林業体験		<ul style="list-style-type: none"> <li>・休耕田を利用した市民農園の開設</li> <li>・種まき，耕作，収穫等の農業体験</li> <li>・既存の桃園，観光農園を活用した農業体験</li> <li>・地元食材を利用した調理体験</li> <li>・山歩き，栗拾い，椎茸とり，間伐，竹加工等の里山体験</li> </ul>
野外レクリエーション体験		<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存施設を活用して乗馬体験（ホースセラピー）</li> <li>・魚釣り場の整備，カヌー体験</li> <li>・アスレチック等（旧榎梨小学校周辺）</li> <li>・地区のサイクリング，ウォーキングコースづくり</li> </ul>
行事・祭り体験		<ul style="list-style-type: none"> <li>・とんど等</li> <li>・泥んこバレーを地区全体のイベントとして維持，水遊び（カヌー，魚釣り）を組み合わせる開催し，都市住民の参加を促進</li> <li>・既存の施設，事業所等による新たなイベントの企画・開催の働きかけ</li> </ul>

### (2) 民泊受入体制の整備

- ・地区の農林家と連携し，民泊の受け入れ体制づくりに取り組みます。
- ・自然，歴史文化，農林業，スポーツなどの体験の場を提供する児童向けのツアーを企画・実施します。
- ・児童向けの民泊ツアーだけでなく，成人を対象として農林業体験を通じた交流と新規就農に結びつく体験ツアーの企画・実施を検討します。

### (3) おもてなし体制の整備

- ・地区資源の掘り起こしを行い、観光マップの作成・印刷、案内看板などの作成・設置を行います。
- ・榎梨地区を広域的にPRするために、インターネットを活用した情報発信体制づくりを行うとともに、地区情報誌の発行を検討します。
- ・榎梨地区の入口などに、地区を意識できる大きなモニュメントの作成・設置に取り組みます。

表11 具体的に取り組む事業

事業名	・魅力満載、ふるさと体験ツアー実施事業
事業の目的	・都市住民との交流を通じた地区の活性化に取り組む ・田舎の良さ、住みやすさ、自然、人情を体験してもらい、Iターン者を増やす ・交流の担い手として高齢者の参加を働きかけ、生きがい活動の場とする
事業の対象	・都市住民、地区出身者等
事業の内容	<p>&lt;ツアー企画実施体制の確立&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと体験ツアーのメニューづくり、ツアー実施</li> <li>・観光協会等との連携体制づくり</li> <li>・体験交流メニューごとの受入スタッフの確保</li> </ul> <p>&lt;体験メニュー掘り起こし&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然体験（山登り、サイクリング、ホテル観察、カブトムシすもう大会）</li> <li>・農業体験（稲刈り、田植え、耕作、種まき、収穫、観光農園等）</li> <li>・地元食材を利用した料理教室（田舎料理）</li> <li>・地区行事（泥んこバレー、とんど等）</li> <li>・魚釣り、カヌー体験等</li> </ul> <p>&lt;ホームステイ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林家への民泊、家業体験</li> </ul>
事業の年次計画	<p>&lt;平成27年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け入れ体制の整備（受入スタッフの確保）</li> <li>・体験交流メニューの発掘、利用層及び季節を踏まえた体験ツアー企画の検討</li> <li>・モニターツアーの実施</li> </ul> <p>&lt;平成28年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度の検証を踏まえて、本格ツアーの企画・実施</li> </ul>
連携する組織等	・三原観光協会、大和町観光協会、三原市大和町農山村体験推進協議会、農業生産法人等

表12 具体的に取り組む事業

事業名	・榎梨地区PR事業
事業の目的	・来訪客に榎梨地区の魅力をわかりやすく案内する
事業の対象	・地区出身者、都市住民
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然・歴史文化、産業資源等の地区の魅力の掘り起こし</li> <li>・地区資源マップの作成、配布</li> <li>・地区資源全体及び地区資源ごとの案内看板等の作成、設置（マンガ的な雰囲気）（古墳、遺跡、堂さん等）</li> </ul>
事業の年次計画	<p>&lt;平成27年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区資源掘り起こし調査、整理、勉強会の開催</li> </ul> <p>&lt;平成28年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力資源マップの作成、配布</li> <li>・案内看板の作成、設置</li> </ul>
連携する組織等	・地区団体

## 5 固い絆に支えられた地区活動の推進

### (1) 地区活動の活性化

#### ア 世代間交流の推進

- ・地区内の絆づくりと地区づくりの方向性を共有する場として、年1回世代ごとの集まりを公民館で開催することを検討します。
- ・日常的な世代間の交流（雑談，食事，お茶等）を推進します。
- ・地区の老若男女が参加できる行事を企画します。

#### イ 行事・祭り等への住民の参加の促進

- ・年間行事・祭りカレンダーを作成して，住民に周知します。
- ・若者の参加が増える方法を検討します。
- ・行事・祭りへの参加の輪を拡大するため，近所同士で声を掛け合い，参加するように働きかけます。

#### ウ 行事・祭りの充実

- ・子どもが喜ぶ行事を開催します。（保護者も参加して盛り上げる）
- ・泥りんピックを他地域との交流の場として，地区の各種団体との連携を強化し，盛り上げます。（将来的には，世界大会の開催を目指す）
- ・榎梨地区全体の盆踊り大会の開催，区民運動会の復活に取り組みます。
- ・フリーマーケットの開催を検討します。

### (2) 地区環境の管理の推進

- ・地区の有志で草刈り作業請負組織をつくとともに，地区での共同作業を推進します。
- ・雑草防止対策としてムカデ芝，芝桜などの植え付けを行います。

### (3) 地区の歴史文化の継承

- ・神楽の継承（子どもを含めて）を行います。
- ・地区の歴史文化の発掘，継承，田舎芝居などの伝統的行事の復活に取り組みます。



表13 具体的に取り組む事業

事業名	・榎梨地区年間行事・祭り見直し事業
事業の目的	・住民の負担軽減と地区活性化，モチベーションの高揚
事業の対象	・榎梨地区
事業の内容	・地区における行事・祭りの年間カレンダーの作成 ・地区行事のスタッフと参加者の状況の点検，開催単位，存続廃止の検討 ・地区行事（公民館祭り等）の復活の検討（地区全体で集まる行事がなくなっている，活力が薄れている）
事業の年次計画	<平成27年度> ・既存の行事の見直し，次年度からの行事・祭りの実施計画の作成 <平成28年度> ・既存行事・祭りの活性化，新規行事の企画・開催
連携する組織等	・地区団体

表14 具体的に取り組む事業

事業名	・神楽大会in榎梨開催事業
事業の目的	・榎梨地区の知名度アップと神楽の継承（担い手の確保）
事業の対象	・地区住民，都市住民，地区出身者等
事業の内容	・広範囲に来訪客を集客できる神楽大会の開催 ・食事付き，神楽衣装の試着等の魅力あるイベントづくり ・神楽を通じて榎梨地区のPR
事業の年次計画	<平成27年度～> ・神楽大会の開催（実行委員会の設立，開催時期，プログラム，協力神楽団体，PR方法等の検討）
連携する組織等	・大具神楽団，地区団体

## 4 計画の推進体制

### (1) 計画の周知，取り組みへの参加の働きかけ

地区住民へあらゆる機会を通じて「ふるさとくわなし元気プラン」を周知するとともに，取り組みへの参加を働きかけます。

- ・「ふるさとくわなし元気プラン」の概要版を全戸配布します。
- ・区及び地区組織の会合で「ふるさとくわなし元気プラン」の説明会を開催します。

### (2) 計画の推進体制づくりと段階的な取り組みの推進

#### ア 計画の推進体制づくり

- ・榎梨自治振興会に「ふるさとくわなし元気プラン」の推進組織「ふるさとくわなし（榎梨地域活性化実行委員会（仮称）」を設置し，計画を推進します。
- ・推進組織へ若者の参加を働きかけます。
- ・計画を推進するため，榎梨自治振興会の事務局の確保に取り組みます。
- ・榎梨地区内の各種組織の連携の強化と一体的かつ幅広い活動を推進します。
- ・人材バンクの設置，登録により，適材適所の人材活用（できる人，やりたい人，ボランティア）を行います。

#### イ 活動資金の確保

- ・地区の活動資金が確保される仕組みづくり（収益事業の展開）を検討します。
- ・自治振興会の会費徴収を検討します。

#### ウ 段階的な取り組みの推進

- ・計画の優先順位付け（地区の重点課題への対応）を行い，段階的な取り組みを行います。

#### ＜優先的に取り組む事業の候補＞

- ・高齢者の安全安心な暮らしサポート事業
- ・くわなし里山再生事業
- ・魅力満載，ふるさと体験ツアー実施事業
- ・くわなしイベント活性化事業（榎梨地区年間行事・祭り見直し事業，神楽大会in榎梨開催事業等）
- ・榎梨地区の情報発信強化事業（榎梨地区PR事業，榎梨自治振興会のホームページの開設等）

#### エ 取り組みへの多様な担い手の参加の確保，人材の育成

- ・住民，各種団体，NPO法人，企業などとの連携を強化します。
- ・地区出身者及び都市住民の応援，三原市などの支援を活用します。
- ・講習会，研修会，先進地視察などの実施による人材の育成を行います。

### (3) 情報の受発信体制の確立

#### ア 地区内向けの情報受発信

- ・ 榎梨自治振興会だよりの発行を検討します。
- ・ 若者世帯などに対し、インターネットを活用した情報発信を行います。

#### イ 地区外向けの情報受発信

- ・ インターネットを活用した榎梨地区の情報発信体制づくりを行い、地区出身者、都市住民に対して地区の魅力・活動（年間行事・祭りカレンダー）を発信することにより、交流を推進します。

#### ウ 人材の確保

- ・ 榎梨自治振興会のホームページを管理、活用できる人材を確保、育成し、タイムリーな情報の発信体制を確立します。

## 資料 計画策定の取り組み

### 計画策定の経緯

日 程	委員会等	協議事項
平成 26(2014) 年 6月29日(日)	第 1 回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域計画策定委員会の設置</li> <li>・「地域計画」策定の進め方について</li> <li>・アンケート調査, 意見交換会について</li> </ul>
8月1日(金)～ 8月20日(水)	アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査の実施 (地区内住民(16歳以上))</li> </ul>
9月20日(土)	第 2 回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査結果の報告</li> <li>・地区活性化意見交換会の開催について</li> </ul>
10月18日(土)	第 1 回榎梨地区活性 化意見交換会(ワー クショップ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査結果の報告</li> <li>・地区で困っていることとその解決のアイデア について</li> </ul>
11月22日(土)	第 2 回榎梨地区活性 化意見交換会(ワー クショップ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の魅力・資源と活用のアイデアについて</li> <li>・地区の将来像, 今後取り組みたいこと, 取り 組んでほしいこと</li> </ul>
平成 27(2015) 年 1月16日(金)	第 3 回榎梨地区活性 化意見交換会(ワー クショップ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ別の具体的な取り組みについて</li> </ul>
2月13日(金)	第 3 回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画素案の協議, 修正</li> </ul>
3月6日(金)	第 4 回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画案の協議, 承認</li> </ul>